

# 除草剤の体系処理による難防除雑草の防除

## 1. 技術の概要

一発除草剤のみの防除では、発生期間の長い多年生雑草を取りこぼす可能性が高く、結果として中後期除草剤を散布することにより、生産資材コスト増高となっているケースが多い。初期除草剤(メテオ等)とテフリルトリオン等の非SU広葉剤を含む一発除草剤の体系防除が抵抗性が発達したほ場においても安定した効果を示す。

## 2. 技術導入のメリット

- ① 初期除草剤(メテオ等)とテフリルトリオン等の非SU広葉剤を含む一発除草剤との体系防除により、**中後期除草剤の散布が省ける事例が多い**。
- ② 初期除草剤は中後期除草剤と比較して安価な剤が多いため、**生産資材コストの低減**につながる。



【テフリルトリオン等の非SU広葉剤を含む一発除草剤 ラインナップ】

【白化したオモダカ】

## 3. コスト削減効果

県名	体系防除 採用前			体系防除 採用後			コスト削減金額	コスト削減率
	初期剤	初中期一発剤	中後期剤	初期剤	初中期一発剤	中後期剤		
青森		SU含有	○	○	AVH剤 (FL)		-530	-10%
宮城		新規SU含有	○	○	AVH剤 (FL)		-1,477	-27%
秋田		非SU	○	○	AVH剤 (粒)		-1,690	-27%
秋田		新規SU含有	○	○	AVH剤 (粒)		-2,451	-37%
茨城		SU含有	○	○	AVH剤 (顆粒)		-1,300	-22%
栃木		SU含有	○	○	AVH剤 (JB)		-1,050	-19%
栃木		SU含有	○	○	AVH剤 (JB)		-940	-17%
埼玉		SU含有	○	○	AVH剤 (JB)		-1,545	-29%

## 4. 留意事項

- ① 除草剤を処理した後、7日間は水田水が水田外に出ないように排水口を止めさらにその期間は給水も止める。

お問い合わせ先



JA全農 肥料農薬部 技術対策課

TEL.03-6271-8291 FAX.0120-771639(ナナイロサク)